

I 実践

1 研究主題

一人一人の存在を大切にし、互いを思いやり、助け合って行動できる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は「豊かな心を持ち 自ら学び考え たくましく生きる児童の育成」を教育目標として掲げている。「豊かな心」を育成するために人権教育において「一人一人が大切な存在」をテーマに、様々な体験活動を行い、教育環境を整えることで、一人一人がかけがえない存在であることを自覚できるようにしたい。そして互いを思いやる心を持ち、助け合って行動するよさや大切さに気づくことができる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 一人一人を大切に環境づくり
- イ 豊かな体験活動の展開
- ウ 人権に関する啓発活動の充実



係コーナー

誕生日コーナー

朝の過ごし方

2 実践の内容

(1) 一人一人を大切に環境づくり

ア 活動の流れや活動の足跡がわかる作品や資料の掲示

児童作品や係コーナー、誕生日コーナー、互いのよいところを書いた「なかよしの木」を掲示し、学級の一員としての所属感情を高められるようにした。また日直の当番活動の流れや朝の登校後の活動などをわかりやすく掲示し、自分でできることを増やし自己に自信をもち、さらに互いに教え合い助け合えるようにした。

イ 道徳コーナーの設置

よりよく人と接していく方法やふわふわ言葉、道徳の授業における友達の意見などを掲示することで、自分の気持ちを伝え、相手を思いやり、助け合いながら行動できる児童の育成を図った。

ウ よいところはけん運動

自分や友達、学校や地域のよいところ見つけてカードに記入し掲示したり放送したりすることで、互いの良さを認め合う意識の高揚を図った。



道徳コーナー

エ 特別支援学級との連携・交流

特別支援のポプラ学級は、特別なところではなく「みんなが困ったときにじっくり学習したり考えたり、相談したり、心を休めたりする場所」と低学年の頃から伝え、身近な存在であると意識させている。休み時間は様々な学年の児童や教師が遊びに来たり、声を掛けに来たりできる偏見や差別の壁をはずせるよい環境になっている。また、廊下掲示には常に人とのコミュニケーション力を高めるための支援が満載である。

(2) 豊かな体験活動の展開

ア 地域交流・異学年交流

低学年の生活科では、昔遊びで地域の高齢者の方々との交流を。学校探検やおもちゃ祭りでは1・2・幼稚園生との異学年交流を行っている。3年生は、かるた大会で1・2年生と交流を行うなど、いろいろな場面で地域や異学年との交流が行われた。



幼稚園生との交流

縦割り班遊びでは、学期に1度ではあるが、1～6年生による縦割り班で鬼遊びや大縄、ボール遊びなどをして楽しく遊んでいる。高学年が低学年の面倒をよく見て行動する姿が見られた。

また、合奏団が敬老会に参加をした。日頃の練習の成果を発揮し、地域の皆さんを喜ばせることができた。

イ みんなであいさつ運動

低学年は学年ごとに、高学年は委員会単位で朝のあいさつ運動を行った。今年度は中学生も加わり小中連携活動となった。互いに気持ちのよいあいさつを交わそうとする意識が高まった。



みんなであいさつ運動

ウ 福祉体験

5年生では、総合的な学習の時間を活用して、高齢者疑似体験や車いす体験・盲導犬を活用し生活している方の講話を伺う活動を行っている。この体験をとおして、高齢者や障害者との距離を縮め、互いに住みよい社会を作り、助け合って生きていこうとする考えを育むことができた。



車椅子体験

エ 動物ふれ合い教室

動物愛護センターの方々の講話や犬とのふれ合いをとおして、生き物の命の大切さを学ぶことができた。(2年生)

オ 読み聞かせ

毎週火曜日の朝自習の時間、保護者やボランティアの方による読み聞かせを行っている。また図書室の割り当ての日には図書室でも読み聞かせてもらうなど、本や人との出会いを大切にしながら豊かな心を育てている。



動物ふれ合い教室

(3) 人権に関する啓発活動の充実

ア なかよし週間と映画上映会の実施

12月に校内人権週間「なかよし週間」を実施した。その期間、身近にいる友だちのよさについて考えながら生活するよい機会になった。またこの時期に合わせて人権に関する映画を鑑賞し、代表児童の作文を校内放送したり掲示したりした。低学年は「ハッピーパースデイ」高学年は「声を聞かせて」を鑑賞した。何気ない言葉や態度から始まるいじめや、携帯電話で起こるいじめの怖さ、それらをとおして、「いじめはぜった悪い」と深く考えることができた。



図書室での読み聞かせ

イ 人権作品関係応募への積極的な参加

人権メッセージや人権絵画作品など、人権作品に関する応募に進んで参加し、校内放送や掲示を行い、人権意識の高揚を図った。

ウ 人権教育に関する研修

夏休みを中心に道徳や人権に関する研修会等へ積極的に参加し、情報を全職員で共有し合いながら、人権意識の高揚を図った。



なかよし週間カード

3 成果

- (1) 様々な活動における異学年交流や地域との交流をとおして、仲良く生活する楽しさやよさに気づき、進んで教え合ったり助け合ったりする態度を育むことができた。
- (2) 「よいところはっけん」運動の実施や「なかよしの木」や廊下掲示物などの環境を整えることにより、自分や相手のことを見つめ、一人一人の存在を大切に思う心を養うことができた。
- (3) 人権メッセージへの全児童参加や代表作品の掲示や校内放送を行うことで、いじめや人権に関して互いの考えを共感し合い、相手を思いやりよりよい人間関係を築こうとする態度を育むことができた。

II 今後の課題

- (1) 各教科や道徳の時間など学校教育全体をとおして、人権に関する学習をより充実させ、児童一人一人の人権意識がさらに高まる取り組みを継続的に実施していきたい。
- (2) 一人一人の存在を大切にしたい環境を整え、安心した生活の中で互いを思いやる気持ちや行動が育まれるように様々な取り組みや研修を重ねていきたい。

III 人権コーナーの設置

各教室に道徳コーナーが設けられており、そこで人権教育の啓発も行っている。また昇降口には「よいところはっけん」コーナー、廊下の頭上には心温まる詩、特別支援学級の廊下には、みんなと仲良く接するための方法や自分の考えを伝える方法などが掲示してあり、よりよい人間関係が築かれるような環境づくりに努めている。



「よいところはっけん」コーナー



廊下掲示